

岡山空襲惨状伝える

市内2カ所で
写真展 当時の生活用品も展示

昭和二十年の岡山空襲を
教訓に定められた「市平和
の日」（二十九日）を前に
二十三日、戦争の悲惨さと
平和の大切さを考える写真展

展が表町の天満屋岡山店地下市民ギャラリーなど市内
二カ所で始まった。
地下市民ギャラリーでは
6・29市民平和祭実行委（大



石和昭代表）が「岡山空襲
と子ども展」を二十八日ま
で開催。岡山空襲で廃虚と
なった市中心部の街並みを
撮った写真のほか、国際医
療ボランティア・AMDA
がコソボ難民の暮らしぶり
を撮影した写真など約五十
点を展示している。

買い物で立ち寄った弓田
フサエさん（左）舟橋町
は一人が空襲で亡くなっ
ており、当時を思い出して
胸が熱くなった。この写真
展をたくさんの人に見てほ
しい」と話していた。

また市と市教委は「岡山
戦災の記録と写真展」（二
十五日まで）を大供の市役
所一階市民ホールで開催。

岡山空襲の直前と直後に撮
影した市中心部の写真と水
筒、飯ごうといった当時の
生活用品など約六十点のほ
か、戦災で焼け焦げたかね
つき堂（現在の表町）の「つ
りがね」（直後約九十枚、

戦争の悲惨さを伝える写真や資料に見入る市民

ら 天満屋岡山店地下市民ギャラリー

高さ約九十枚も展示され
訪れた市民の目を引いてい
る。